

# アグリ

# ワーク

# ポイント



## 摘採

一番茶摘採後、45〜50日で二番茶の摘採が始まります。梅雨時期となり摘採期に雨天が続く、計画通りに作業が進められない可能性があるため、週間天気を確認し、工場等の生産計画に沿って適期摘採を心掛けてください。また、高温・多湿で葉傷みが起こりやすいため、生葉の鮮度維持に努め、良質な荒茶を製造しましょう。

## 二茶後の施肥

濃度障害による根の傷みを回避するために、**速効性肥料の1回の施肥量を窒素成分で10kg/10a以内**にします。

二茶後の施肥の目的は、三番茶を順調に生育させることと夏の間に茶樹に過不足なく窒素を吸収させることにあります。三番茶を摘採しない園でも、この時期に伸びる新芽は翌年一番茶の母枝になるため、充実した枝条にする必要があります。しかし、二番茶摘採時期には、芽の生育が早く雨が多いことから、一般的に作業が遅れがちになります。適期に速やかに施肥を行えるよう、二番茶摘採前に準備をしておくことが安心です。

雨が多いこの時期には、速攻性の化成肥料では秋までの安定的な肥効が期待できないので、有機質肥料などの緩効性肥料を活用しましょう。

## 病害虫防除

二番茶萌芽から一葉期までに、チャノミドリヒメヨコバイやチャノキイロアザミウマ、チャノホソガ、炭

そ病、もち病の防除を行います。

南部地区については、6月上旬頃からナガチャコガネの防除時期になります。フォース粒剤の散布時期は、成虫飛来初期からふ化幼虫期になります。土壌中でガス化して成虫への殺虫効果を発揮するので、薬剤処理後は効果を安定させるため土壌混和してください。使用の際には各地区の防除規制にしたがって防除しましょう。

フォース粒剤 9kg/10a 7日前まで

なお、6月は農業危害防止月間です。農薬の使用や保管には十分注意しましょう。

## 二番茶後の更新

**二番茶後の更新は、基本的に行わないでください。** 早場所でも可能な地域もありますが、更新後の気象が干ばつで推移した場合、回復できないことがあります。凍霜害を受け、生育にバラツキが見られる茶園については、樹勢の良否を見て、浅めの更新で芽の均一化を図ってください。